# 『帰ってきた、もじゃもじゃペーター』の中の「しつけ絵本」

荒　川　麻　里

Es gibt zwei friedliche Gewalten: Das Recht und die Schicklichkeit.[1]
二つの平和的暴力がある。法と礼儀作法がそれである。
― Johann Wolfgang von Goethe

## はじめに ～『もじゃもじゃペーター』が帰ってきた！～

| | |
|---|---|
| Sieh einmal, hier steht er, | ごらんよ　ここにいる　このこを |
| Pfui! der Struwwelpeter! | うへぇ！　もじゃもじゃペーターだ！ |
| An den Händen beiden | りょうての　つめは　1ねんも |
| Ließ er sich nicht schneiden | きらせないから　のびほうだい |
| Seine Nägel fast ein Jahr; | |
| Kämmen ließ er nicht sein Haar. | かみにも　くしをいれさせない |
| Pfui! ruft da ein jeder: | うへぇ！　と　だれもが　さけんでる |
| Garstger Struwwelpeter! | きたない　もじゃもじゃペーターだ！[2] |

1844年12月、クリスマスが近づいた冬の日のことだった。街には、3歳の息子カールのために絵本を探し歩く一人の父親がいた。ところが、どうにも相応しい本が見つからない。帰宅して妻に言った。「ほら、この本だよ」。白紙のノートを渡されて驚く妻に、息子のために絵本を作るアイディアを打ち明けた。こうして、現在まで世界中で読み継がれている絵本、『もじゃもじゃペーター』[3]の原型は誕生したのである（図1参照）[4]。

図1：最初のもじゃもじゃペーター

Heinrich Hoffmann: Drollige Geschichten und lustige Bilder, 1844, „Der Struwwelpeter“. Sign. HS 100921. (Otto Gast, Auf dem Gabentisch anno 1844, KulturGUT – Aus der Forschung des Germanischen Nationalmuseums, IV: Quartal 2009)

本稿が取り上げる『帰ってきた、もじゃもじゃペーター』（Struwwelpeter: Die Rückkehr・図2参照）は、大量の『もじゃもじゃペーター』類似本、関連本、パロディ本の一つに数えられる。これら多くの「もじゃもじゃペーター群」（Struwwelpetriaden）[5]の中で、1冊のManga[6]という形式で表現した作品はこれが初めてである。

現代マンガの題材になるほどに知られている『もじゃもじゃペーター』とは、どのような作品なのか。本稿では、まずは原作の物語と歴史的な位置を確認した上で、原作との対比によって『帰ってき

た、もじゃもじゃペーター』を読み解きたい。そこに「しつけ絵本」に対する批判的再評価のまなざしを見出す本稿の視点は、現代社会のしつけをめぐる問題、とりわけ子どもへの暴力や虐待の構造を解明しようとする筆者の問題関心によるものである。

## 1.　『もじゃもじゃペーター』ができるまでとそのお話

『もじゃもじゃペーター』は、プロローグと 10 の短い物語からなる。冒頭で紹介したような、絵と短い文の組み合わせという形式は、全編に共通している。たった 1 頁、あるいは長くても 4 頁ほどで強烈なインパクトを持つお話が完結し、それぞれの間につながりはない。

日本では、世界の教科書を収集した五倫文庫の創設者、伊藤庸二の訳による『ボウボウアタマ』（帝都書院）が 1936 年に出版され[7]、1980 年には『もじゃもじゃペーター』として新訳が出された[8]。

一般に、最もよく知られている『もじゃもじゃペーター』は、図 3 のように、ペーターが表紙を飾っている。しかし、3 歳のカールが手にした最初の絵本では、もじゃもじゃペーターは最終頁に描かれていた。すべての物語を書き終え、最後の 1 枚をどうしようかと思案した挙句に書き入れたと、作者のハインリヒ・ホフマン（Hoffmann, Heinrich, 1809- 1894）は回想している（Hoffmann, 2009, 35）。当時、精神病院の医師であったホフマンは、町医者としても診療に当たっていた。泣き出し、抵抗する子どもたちの診察に苦慮し、絵を描いてお話を聞かせるうち、『もじゃもじゃペーター』の原型となる物語は作られていったのである[9]。

1844 年 12 月 11 日に誕生した娘リナの洗礼式の折、ホフマンの絵本を目にした大人たちは口々に言った。「これはぜひ印刷して刊行しなければ！」。そして 1 年後、1845 年のクリスマスに、初版本『たのしいお話とおかしな絵―3 歳から 6 歳の子どものための美しく彩色された 15 枚の絵』[10]は出版された。初版 1,500 部は、4 週間のうちに完売したという[11]。翌年には 2 つの物語が加えられ、ペンネームを変更して、20 枚からなる第 2 版が出版された。第 3 版からはタイトルが„Struwwelpeter“となり[12]、そして第 5 版以降、ペーターが冒頭にくるお馴染みの 10 の物語の姿になる。その内容については、次頁の表 1 に概略をまとめて記す。数字は左から各話の頁数、そして初版、第 2 版、第 5 版における掲載順序を示している。

『もじゃもじゃペーター』は、1871 年に 100 版、1921 年には 500 版を重ね、世界中の様々な言語に翻訳された。「スープ・カスパー」などの登場人物名は普通名詞として用いられ、ドイツ語の辞書にも掲載されている[13]。上述したように、大量の「もじゃもじゃペーター群」を生みだしていることからも、この本が如何に広く読み継がれてきたかがわかる。例えば、女

**図 2 :『帰ってきた、もじゃもじゃペーター』の表紙**
David Füleki, Struwwelpeter: Die Rückkehr, TOKYOPOP, Hamburg, 2009.

**図 3 :『ぼうぼうあたま』の表紙**
ハインリッヒ・ホフマン（訳 : 伊藤庸二）、五倫文庫、2006 年

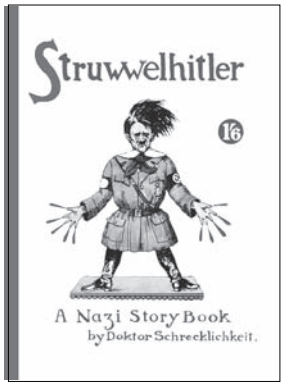


**図 4 :『もじゃもじゃヒトラー』の表紙**
Spence, Robert / Spence, Philip 1941: Struwwelhitler: A Nazi Story Book by Dr. Schrecklichkeit, London: The Daily Sketch and Sunday Graphic : 2005 Aus dem Englischen übertragen von Dieter H. Stündel, Autorenhaus

の子ヴァージョンの『もじゃもじゃリーゼ』（Die Struwelliese, um 1890）[14]や、政治的パロディの『もじゃもじゃヒトラー』（図 4）などがある。

**表 1：『もじゃもじゃペーター』物語の内容と掲載順序**

| Nr. | 【上段】タイトル（ドイツ語）と使用頁数（第 5 版）<br>【下段】タイトル（日本語）：物語の簡単な内容<br>※「／」は改頁の箇所を意味する | 各版の出版年、作者名（ペンネーム）、物語の順序 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 初版（1845）<br>Reimerich Kinderlieb | 第 2 版（1846）<br>Heinrich Kinderlieb | 第 5 版（1847）<br>Heinrich Hoffmann |
| 0. | Vorspruch 1 | 0 | 0 | 0 |
| | プロローグ： いい子のところには、クリストキントが幸せときれいな絵本を持ってくるよ。 | | | |
| 1. | Der Struwwelpeter 1 | 6 | 8 | 1 |
| | もじゃもじゃペーター： 髪も爪も伸び放題、汚いもじゃもじゃペーターだ！ | | | |
| 2. | Die Geschichte vom bösen Friederich 3 | 1 | 1 | 2 |
| | わるぼうずフリードリヒのおはなし： 動物をいじめるフリードリヒ／イヌが起こって噛みついた／フリードリヒはベッドの中、苦い薬を飲まされた。イヌはテーブルで、ご馳走をぱくついている。 | | | |
| 3. | Die gar traurige Geschichte mit dem Feuerzeug 2 | - | 6 | 3 |
| | とてもかなしい ひあそびのおはなし：パウリンヒェンはお留守番。きれいなマッチに気がついた。ネコのミンツとマウンツは鳴く。「だめだ、だめだよ！」／マッチの火がパウリンヒェンに燃え移り、後には灰が残っただけ。ネコの涙が小川のように流れている。 | | | |
| 4. | Die Geschichte von den schwarzen Buben 4 | 2 | 2 | 4 |
| | まっくろになった こどもたちのおはなし：3 人の男の子が真っ黒い子をいじめている／ニコラウス様は言った。「あの子が黒いのは生まれつき」。それでも 3 人は、いじめ続ける／ニコラウス様は彼らをインク壺にすっぽり浸す／ごらんよ、さっきの子よりも真っ黒な 3 人を。 | | | |
| 5. | Die Geschichte vom wilden Jäger 3 | 3 | 3 | 5 |
| | らんぼうな かりゅうどのおはなし：ウサギを狩りにやってきた狩人、あんまり暑くて一休み。ウサギがこっそり忍び寄り、鉄砲とメガネを抱えて逃げ出した／ウサギは狩人めがけて撃ちまくる／狩人は井戸に飛び込み、ウサギは続けてぶっぱなす。狩人のおかみさんの飲んでいたコーヒー茶碗が真っ二つ。井戸の蔭にいた子ウサギは熱いコーヒーを鼻に浴びる。「誰が僕に火傷をさせたの？」 | | | |
| 6. | Die Geschichte vom Daumenlutscher 2 | 5 | 5 | 6 |
| | ゆびしゃぶりこぞうのおはなし： 「親指をしゃぶってはいけませんよ」そういってママがでかけると、コンラートはとたんに親指口の中／仕立て屋さんがやってきて、ちょきん！ちょきん！とコンラートの親指を切り落とす。ママが帰ると、親指のないコンラートが一人で立っていた。 | | | |
| 7. | Die Geschichte vom Suppen-Kaspar 1 | 4 | 4 | 7 |
| | スープ・カスパーのおはなし： まるまる太ったカスパー、ある日叫んだ。「僕はスープなんか飲まない！」。どんどん痩せて四日目には針のようになったカスパー、五日目には墓の中。 | | | |
| 8. | Die Geschichte vom Zappel-Philipp 3 | - | 7 | 8 |
| | じたばたフィリップのおはなし： フィリップは椅子を揺らしてガタガタ、ばたばた／倒れそうになってテーブル掛けを掴みお皿もすべて落ちた／パパとママは怒ってる。もう食べるものは何もない。 | | | |
| 9. | Die Geschichte vom Hans Guck-in-die-Luft 3 | - | - | 9 |
| | ぼんやりハンスのおはなし：ぼんやり空ばかり見てるハンス。イヌとぶつかってどっしーん！／川っぷちでも上ばかり見て落っこちた／大人が助けてくれたけど、ごらん！びしょ濡れのハンスを。 | | | |
| 10. | Die Geschichte vom fliegenden Robert 1 | - | - | 10 |
| | そらをとんだローベルトのおはなし：ローベルトは考えた。どしゃぶりの雨の中は家より面白いぞ！嵐が吹き荒れて、ローベルトは飛ばされた。傘と一緒にどこまでも、どこまでも。 | | | |

## 2.　子どもの本の歴史における『もじゃもじゃペーター』の位置と「しつけ絵本」

上述したように、『もじゃもじゃペーター』は、非常に多くの子どもたちに長年にわたって読み継がれてきた本である。同時に、子どものための絵本の先駆けとして位置づけられている。『新・こどもの本と読書の事典』では、絵本の歴史について、コメニウス（Comenius, Johannes Amos, 1592-1670）の『世界図絵』(1658 年) の次に『もじゃもじゃペーター』(1845 年) を挙げている (黒澤他, 2004, 33)。

児童文学に関する文献でしばしば引用されるヒューリマン（Hürlimann, Bettina, 1909-1983）の『子どもの本の世界』の序論は、「子どもの本は破かれるためにある」[15]というホフマンの言葉で始められ、彼の作品群のために 1 つの章が充てられている。曰く、「ホフマン博士の仕事は、グリムの民話に次いで、ドイツが児童文学になした最大の貢献といえる」（Hürlimann, 1963: 1969, 175）。

では、『もじゃもじゃペーター』が、子どもの本の歴史にそれほど大きなインパクトを与えたと位置づけられるのはなぜなのだろうか。まずは当時の子どもの本の状況から考えたい。冒頭に書いたように、ホフマンは 3 歳の息子のために、「この小さな世界市民 (Weltbürger) にふさわしい本」(Hoffmann, 1893, 17）を探していた。そして本屋で見つけたのは、①長編小説、インディアンや盗賊の本、②つまらない絵を集めたもの、③見事に描かれ、立派に彩色された童話、④「良い子は正直でなければなりません」、「良い子は清潔にしていなければなりません」などのお説教がついた教訓物語、⑤そして最も彼を失望させたのは、馬、イヌ、机、椅子、鍋、その他さまざまな生物や道具などの絵に「実物大の 1/2、1/3、1/10」などとご丁寧な注釈をつけた大型本であった[16]。例えば③には、日本でもよく知られている『グリム童話』(初版第 1 巻 1812 年）がある。④は 18 世紀の啓蒙主義から広がった道徳的な本で、池内は「つまりがカンペ先生の作になるような本」(池内, 1994, 128）とまとめている。⑤はコメニウスの流れを汲む教育用絵本で、ベルトゥフ（Bertuch, Friedrich Johann Justin, 1747-1822）の『子どものための絵本』(1790 年）などが代表作に挙げられる。当時、これらの道徳的な教訓物語や教育用絵本が数多く出回っていたことがわかる。このような本を前にして、自分の子にふさわしくないと判断したホフマンの子ども観、教育観を読み解くヒントを与えてくれる一節がある。

> 子どもはただ見て学び、見たものだけを理解するのです。教訓など、まるで役に立たない。きれいにしなさい！マッチは触ってはいけません！ 言うことを聞きなさい！―そんな警告は、子どもには通じません。しかし、汚らしい子ども、燃えあがる服、災難にあった不注意者の絵を見ることは、それだけで明快に教えるのです。(Hoffmann, 1893, 17)

ホフマンは、子どもをしつけることを否定しているのではない。その方法を批判しているのである。『もじゃもじゃペーター』が示しているように、小さな世界市民は清潔にしてなくてはならないし、動物を虐待してもいけない[17]、指をなめていてもいけないのだ。しかし、「なめるな」と言ったところで、すぐにはやめられない。そこで、親指をちょん切られる「指なめコンラート」の絵が登場する訳だが (図 5 参照)、とりわけその残酷さにおいて、この場面は当初から批判の的となっている[18]。ヒューリマンも、この頁だけは大急ぎでめくったと回想している[19]。当時の衛生状況からして、医師であるホフマンはそ

**図 5：指なめコンラート**
ハインリッヒ・ホフマン、佐々木多鶴子訳『もじゃもじゃペーター』ほるぷ出版、1985 年、16 頁

うまでしても指しゃぶりをやめさせたかったとする見方もあるが（野村, 1999, 12）、ホフマン自身はとりたててこれに言及していない。彼が強調するのは、医師という存在がしつけのための脅しに使われたために、自分を見て子どもが泣き出し、診察が困難であったということだ（Hoffmann, 1893, 17-18）。

ホフマンが見ていたのは、泣いている子どもと、繰り返し言い聞かせる親の情景である。場合によっては、尻をぶたれる子もいたかもしれない。「言って聞かせる」ことは、小さな子どもの前では無力である―多くの親子の情景を見て、彼はこう確信したに違いない。ホフマンは、書店で見た教訓物語が小さな子どもにとっても、また親にとっても助けにならないことを知っていたのである。

アリエス（Ariès, Philippe, 1914-1984）は、17 世紀末葉から決定的に、家族は子どもをめぐって組織され、子どもの教育に関心を持つようになったとし（Ariès, 1973 [1960] : 1980, 3）、「楽しい教育的読み物や、子どもの礼儀作法書はすべて、子どもが家族の中でとるようになった新しい重要性を証明している」（Ariès, 1972/78 : 1992, 89）と指摘する。しつけや礼儀の本について、ドイツ国立図書館で児童図書部門長を務めたヴェーゲハウプト（Wegehaupt, Heinz）は、最初期のエラスムス（Erasmus, Desiderius von Rotterdam, 1465-1536）『少年礼儀作法論』（1530 年）から、18 世紀には道徳的物語になり、そして 19 世紀に『もじゃもじゃペーター』に現れたとみている（野村, 1982, 12）。

礼儀作法書を鍵に文明化の過程を読み解いたノルベルト・エリアス（Elias, Norbert, 1897-1990）は、家庭だけが人間の衝動的行為（性行為等）の合法領域となるにつれ、親は子どもを教育するものだという考え方が広まったとし、衝動の抑制は直接的物理的力による外的強制から内的抑制へ、「なかんずく家庭を通じて個人に自己抑制として、すなわち、自動的に作用する習慣として幼児から教え込まれる」（Elias, 1969a : 1977, 363）と指摘する。この文脈において「しつけ」は、家庭で子どもの自己抑制の習慣を養い、強化すること、「しつけ絵本」はその手段の一つと捉えることができる[20]。ここで家庭は、衝動行為の唯一の合法領域とされながら、しかし教育については自己抑制の鍛練の場であるという矛盾を抱えることになる。家庭内での外的強制である体罰等もまた、極力排除することが求められるが、しかしいつでも最終手段として合法であった。ホフマンに話を戻すと、彼は 3 歳で実母を亡くし、継母に愛されて育った。その継母が一度だけホフマンを叩き、長年後悔していたことは、子供時代の特別な思い出として語られている（Hoffmann, 2009, 12）。子どもの教育において、体罰のような外的強制を排除することは、すでにホフマンの念頭にあったと見てよい。19 世紀半ばという時代が「ホフマンの登場を待ち受けていた」（山名, 2003, 124）という見方は間違いではないだろう。だが、『もじゃもじゃペーター』が現代まで読み継がれている理由は、「毎日こんな小言は言いたくない」、「叩きたくて叩いてる訳じゃない」、そんな親の苦悩へのホフマンの配慮にあるのかもしれない。

一方、批判もまた大きい。70 年代の反権威主義的な教育を象徴するのは、大人社会の欺瞞を描いたヴェヒターの『アンチ・もじゃもじゃペーター』（Waechter, 1970）である[21]。この影響で、『もじゃもじゃペーター』を子ども部屋から排除する親も多かったという（Der Westen, 14.06.2009）。さらに、ミラーは、『魂の殺人』（Miller, 1980）[22]において、「教育」という名のもとに子どもを抑圧する教育の闇の部分、そして子どもの虐待の事実を世に知らしめた。『もじゃもじゃペーター』は、ミラーによっては言及されていないにもかかわらず、この「闇教育」（schwarze Pädagogik）ともまた、結びつけられていく[23]。『もじゃもじゃペーター』が象徴的な存在として批判の的とされている事実こそ、この本が「しつけ絵本」としての抑制機能を十分に果たしてきたことを物語っていると言えるだろう。

## 3. 『帰ってきた、もじゃもじゃペーター』に描かれた原作『もじゃもじゃペーター』

2009年、『もじゃもじゃペーター』の生みの親であるホフマン生誕200年を祝って、各所で企画展や講演会などが催された[24]。ドイツのマンガ家デヴィッド・フュレキ（Füleki, David, 1985-）はこの年、2冊の本を出した。1冊は、ホフマンのテキストと構図をそのままにして描き直した『もじゃもじゃペーター：いたずらっ子たちの本』（Füleki, 2009b・図6参照・以下、「フュレキ版」と略）、もう1冊は原作のマンガ化を試みた『帰ってきた、もじゃもじゃペーター』（Füleki, 2009a・以下、「マンガ版」と略）である。

マンガ版は、1冊のコミックとして一貫した流れのあるストーリーを形成している。まずは、この本のストーリーを、各章ごとに整理しておきたい（表2参照）。表中の四角で囲んでいるのはペーターの仲間、破線はペーターたちの敵、丸数字は原作における順序を示している。

図6：『もじゃもじゃペーター：いたずらっ子たちの本』のペーター
David Füleki / Heinrich Hoffmann, Struwwelpeter: Das große Buch der Störenfriede, TOKYOPOP, 2009.

表2：『帰ってきた、もじゃもじゃペーター』の目次と内容

| 章 | タイトルと内容 | 頁 |
|---|---|---|
| 1: | Nach all der Zeit der Sittlichkeit...（モラル時代の余波） | 7-34 |
| | 休暇から戻った①ペーターが見た世界では、子どもたちはいたずらどころか公園で遊ぶことさえ許されない。抵抗して悪さをしたペーターは、軍隊を引き連れた⑤狩人に捕らえられてしまう。 | |
| 2: | Die letzten ihrer Art（残された英雄たち） | 35-62 |
| | 空見る⑨ハンスはペーター救出に向かい、そこで捉えられていた火遊びの③パウリンヒェンを発見する。3人は空飛ぶ⑩ローベルトのジェット機で逃げ出し、あばら屋へ。そこでペーターは絵本『もじゃもじゃペーター』を用いた④ニコラウスのモラル政策、そして「いたずらっこリスト」で自分が一番であることを知る。見せしめに親指をちょん切られた指なめ⑥コンラートは、部屋の片隅で震えている。抑えつけられて感情を失った人々を救うため、彼らは立ち上がる。 | |
| 3: | Notstandsgesetz 37c（有事法37c） | 63-90 |
| | 彼らを追い回す狩人によって、ローベルトが捕えられた。他のメンバーをかくまったのは、じたばた⑧フィリップであった。ニコラウスは「有事法37c」を発令し、新薬「いたずらっ子ブロッカー」を翌朝には配布すると公言し、いたずらっ子たちを退治しようとする。 | |
| 4: | Meine Suppe ess ich nicht!（ぼくは スープは のまないよ！） | 91-118 |
| | 「いたずらっ子リスト」の中のあと一人、⑦スープ・カスパーを探すため、ペーターとパウリンヒェンは学校に忍び込む。地下室でカスパーを見つけ、協力を求める。 | |
| 5: | Störenfriede vs. Staatsgewalt（いたずらっ子たち vs 国家権力） | 119-146 |
| | いたずらっ子たちは総動員してニコラウスに立ち向かう。狩人率いる軍隊の抵抗にあうが、協力してニコラウスを捕える。しかし、そこで待ち受けていたのは、悪ぼうず②フリードリヒであった。 | |
| 6: | Der König der Störenfriede（いたずらっ子たちのリーダー） | 147-174 |
| | フリードリヒは、「いたずらっ子リスト」で一番のペーターを恨んでいた。ニコラウスの弱みを握って国を動かし、すべての人を抑えつけることで一番のいたずらっ子になろうとしたのだった。しかし、元愛犬のハインに咬まれて我に帰る。人々は感情をとりもどし、街は再びカオスとなる。 | |

以下では、原作とマンガ版の違いを①いたずらっ子たちのヒーロー化、②悲劇の構図の転換、③強制手段としての本の位置づけの 3 点から明らかにし、原作との対比においてマンガ版を読み解きたい。

### ① いたずらっ子たちのヒーロー化

マンガ版は、長いバカンスで世界旅行をしていたペーターが帰ってくるところから始まる。読み始めて数頁で、すぐに新しいペーターのキャラクターの大枠を掴むことができる。富士山頂に巨大なチョコ&ストロベリー&バニラアイスを乗せ、ピラミッドを逆さにするほどの超人的ないたずら能力を持ち、そしてお尋ね者なのである（図 7 参照）。

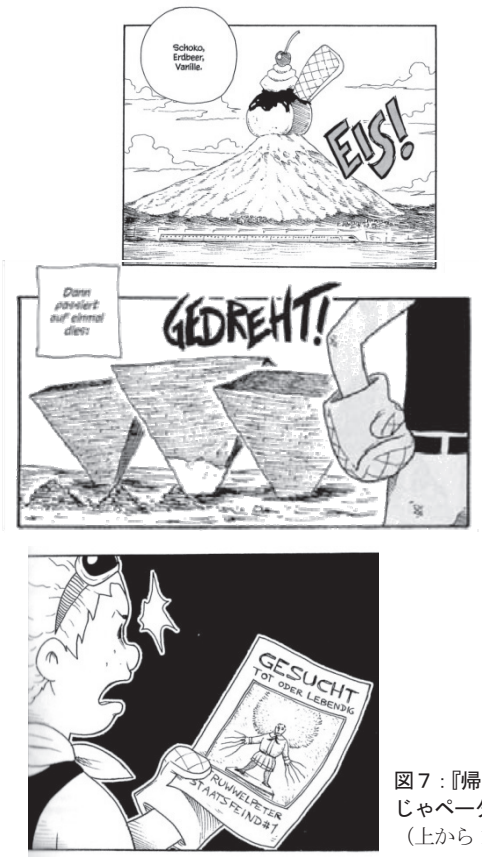

図 7：『帰ってきた、もじゃもじゃペーター』の冒頭部分
（上から 10, 12, 13 頁）

図 8：キャラクター設定
右：草稿段階のペーター（巻末おまけ）
左：変身するペーター（巻頭おまけ）
ペーター： 今回もまた出たいな…。
作者： う～ん、なんか足りないんだよね。これはめてみなよ。
ペーター： どう？
作者： いいね！
下：汚らしいペーター、火をつけるパウリンヒェン、噴き出すフィリップ（77 頁）

フュレキは、このマンガ化のアイディアについて次のように語っている。

> 出版社 TOKYOPOP とは、長く一緒に仕事をしています。残念ながら、ドイツの市場においてコミックは好況とは言えません。そこで、多くの人を引き付けるような何かをしようと考えました。童話をマンガ化した『グリム・マンガ』は、もう 3 年ほど前からかなりの人気です。古典的ドイツ文学…と考えた時、みんな同時に『もじゃもじゃペーター』を思いつきました。（Mittelbayerische Zeitung, 12. 06. 2009）

マンガ版の出版には、ドイツのマンガ市場や文化を盛り上げようとする意図がある。いたずらっ子たちがヒーロー化された背景はここにも見出しうるが、さらにマンガ版では、原作と違い一貫したストーリーを形成するために、新たに登場人物のキャラクター設定が必要とされたのである。図 8 には、新しいペーターを模索する作者の苦悩が現れている。草稿のペーターは明らかに汚らしさ、つまり原作を意識して描かれた。穴の空いた靴下、古いサンダル、口からは鬼の牙のような歯が飛び出している。しかし新しいペーターは、ヒーローとして誕生した。長い爪と髪は、自慢の武器として強調され

ている。図 1 の最初のペーターと図 6 のフュレキ版を比較すれば、その違いは明白である。鼻くそを長い爪で引っ掻きとる場面などがかろうじて、「汚らしさ」を印象づけ、またタンクトップに書かれた「怒」（ÄRGER）の文字とアフロ・ヘアが、抵抗する者としてのペーターの性格を補っている。

さらに、ヒーローとしてのいたずらっ子を決定的に示しているのは、マンガ版の中に登場する「いたずらっ子リスト」である。フュレキは、マンガ版のストーリーの中に「本の中の本」（Buch in Buch・図 8 参照）[25]としてフュレキ版の原作を登場させ、2 冊を関連づけて出版した。ここで「本の中の本」は「いたずらっ子リスト」として機能する。その掲載順序こそが、マンガ版のストーリーの鍵を握っている。すでに確認したように、原作誕生の歴史においてフリードリヒは第 5 版までは 1 番であり、ペーターはびりっけつ、あるいはおまけに描き入れられたのであった。しかし、ホフマンも言うように、子どもたちの絶大な人気を集めていたのは、ペーターだったのである（Hoffmann, 2009, 35）。

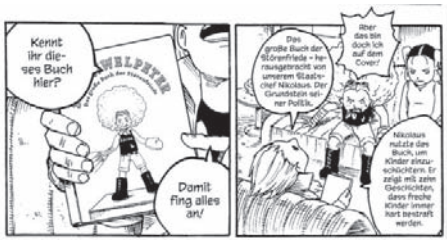

**図 8：「本の中の本」としての『もじゃもじゃペーター』**（51, 48, 108 頁）
左： 自分が 1 番でないことにショックを受けるフリードリヒ。中：「えっ！ 俺が表紙じゃないか！」と驚くペーター。
右： ヒーローであるペーターと会って、興奮する女の子たち

### ② 悲劇の構図の転換

子どもが悲劇に見舞われて、おしまいとなるのが原作であった。しかし、マンガ版では、最終的に大人が悲劇にあうという構図に転換されている。いずれもいたずらっ子たちは、原作の中の悲劇や抑圧を自らの個性に読み替えて変容していく。つまり、いたずらっ子たちは、悲劇にあったままでは終わらないのだ。独裁者ニコラウスによる見せしめにあい、部屋の片隅で震えていたコンラートは、ストーリーの最後ではこう言って拳で胸をたたく。「切られてしまった今も…ここにはちゃんと親指があるんだ！」。

またマンガ版では、いたずらっ子たち vs 大人という図式を用い、よりコントラストを浮き立たせている。

**図 10：立ち上がるコンラート**
（55, 55, 167 頁）

### ③ 強制手段としての本の位置づけ

原作は、クリスマスの贈り物として描かれた作品であった。なにしろその冒頭は、「いい子にしている子どもには、クリストキントがやってくる」と始まるのである。2010 年のクリスマス、ドイツ滞在中にも、書店の表に平積みされた『もじゃもじゃペーター』を容易に発見することができた。

ドイツのクリスマスは特別な市が開かれることでもよく知られているが、このような祭りの文化もまた、19 世紀の家族によってもたらされたと言われる。子どもへの贈り物が一般的になるのと並行し

て、おもちゃ産業も発展した。贈り主として登場したのが、バイエルンを中心とする「クリストキント」、北部の「サンタクロース」である（Weber-Kellermann, 1974, 238-259）。そしてこの贈り物文化は、「よい子にしているならば、与えられる」という巧妙な教育的圧力を含んで発達してきた。

一方、マンガ版における「本の中の本」は、季節を問わずいつでもそこになければならない強制手段である。マンガ化にあたってフュレキがコンセプトとして選んだのは、「（過度の）従順と（過激な）個性の対立」（Konflikt zwischen (übersteigerter) Anpassung und (radikaler) Individualität, MANGAKA.DE, Dez. 2009）であった。モラル政策によって従順であることを強いられた子どもたちは、いたずらを禁止されるばかりか、公園で遊ぶことさえできない。感情を抑えることを求められ、表情を失っていく。「どちらかが正しいということはない」（MANGAKA.DE, Dez. 2009）とフュレキは言う。静かな良い子だけが正しいのではない。だから、いたずらっ子たちは、子どもたちを反対の極の方へ引っ張り出そうと画策する。図 11 は、子どもたちの変化を対照的に示している。

**図 11：変貌する子どもたち（矢印は、その方向を示している）**
左上：「きちんとしていないといけないから、騒ぐものなどいない。感情を抑えるように強要されるんだ。繰り返し…そして、いつか倒れて起き上がれなくなるのさ」（56 頁）。左下：帰ってきたペーターが見た子どもたち。「親が、乗り物はだめだって。危ないから」。「そうだよ。遊ぶと汚れるしね」。（16 頁）。右下：「いたずらっ子」たちの活躍によって、いたずらな子どもたちが復活した。おむつをしてぬいぐるみを持っている。（140 頁）。右上：アフロ！「みんな、遊ぶ時間だよ！」（18 頁）

この作品では「もじゃもじゃ化する」（struwwelisieren）という造語が使われている。上のコンセプトから言えば、従順である者を個性の側へ引っ張り出す、おおよそこのような意味で用いられる。日本に馴染むことを「畳化する」（tatamisieren）という表現と似ている。最後の場面は、世の中のあまりの変わりっぷりに、もじゃもじゃ化し過ぎたかもしれないと思いながら、外の様子を見つめるペーターのこの表情で終わっている（図 12 参照）。

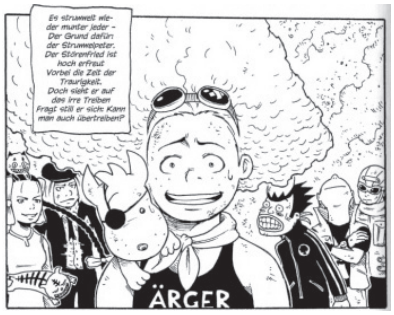


**図 12：もじゃもじゃ化しすぎたかな…**
（174 頁）

## おわりに

『もじゃもじゃペーター』の作者ホフマンは、絵本の可能性を世に示した最初の親であった。当時の道徳的な教訓本とは違い、幼児が目で見てわかるように描いたことは、『もじゃもじゃペーター』が子どもの本の歴史においてエポックとされる所以である。初版本があっという間に完売した事実は、子どもに礼儀作法を教えることが親の役割とされていること、そしてそれを幼児期から教育しようとしていたことを教えてくれる。初版本が出てから、ホフマンは感謝する母親や熱狂的な父親から度々話しかけられたという。「あなたはどれだけ私たちを喜ばせてくれたでしょう！」(Hoffmann, 1871, 769) と。当時、多くの親が「しつけ絵本」を求めていたことを、そこから推測することもできる。「もじゃもじゃペーター群」と名付けられるほどの大量のパロディや類似本の存在は、この本が世界中で読み継がれてきたことの証左である。そしてフュレキはマンガ版の中で、「本の中の本」として『もじゃもじゃペーター』を登場させ、絵本を非常に力あるものとして描いた。

『帰ってきた、もじゃもじゃペーター』は、ホフマンのテキストとフュレキの絵による『もじゃもじゃペーター：いたずらっ子たちの本』と同時に、ホフマン生誕 200 年の記念の年に出版された。この 2 冊は、その状況から、『もじゃもじゃペーター』に対するオマージュとして見ることができる。しかし同時に、従順になるように子どもを押し付け、抑圧する行為（それはしばしば「教育」と呼ばれている）に対して疑問を投げかけている。従順と個性の対立の構図でもってマンガ版が批判するのは、まずもって一方の極への偏りであり、子どもへの抑圧であった。そのためにいたずらっ子たちは、悲劇を克服し、子どもたちを抑圧する力に抵抗するヒーローとして描かれたのでる。長い爪と髪を自慢の武器にするペーターの絵からは、子どもへの抑制を回避しようとする意図を読み取ることができる。しかし、抑圧の手段として描かれた「本の中の本」は、粉砕すべき独裁政権の象徴でもありながら、投げ捨てられたり破かれたりはしない。どこか丁重に扱われている。フュレキに原作を糾弾する意図がないことは、同時出版されたフュレキ版の存在自体から明らかである。

このことからマンガ版は、抑制機能については批判的なまなざしを向けつつ、「しつけ絵本」を再評価するものとして捉えることができるだろう。加えるならば、マンガ版における従順と個性の対立というコンセプトは、「しつけ絵本」が内包する矛盾そのものでもある。子どもを抑制しようと意図することは、子どもの中に抑制しなければ抑えつけられない部分を見出しているということでもあるのだ。

個人の自己抑制の連関が社会的規制や作法となったものを、ゲーテ（Johann Wolfgang von Goethe, 1749-1832）は、法と礼儀作法という 2 つの「平和的暴力」として象徴的に表現した。ちなみに、そのゲーテがライプツィヒ大学の法学生であった 16 歳の頃、「フランクフルトのもじゃもじゃペーター」（Frankfurter Strubbelpeter）[26]と呼ばれていたことは、あまり知られていない。絵本『もじゃもじゃペーター』が世に出る、ずっとずっと前のおはなしである。

## 参考・引用文献


- Ariès, Philippe 1973[1960]: L'enfant et la vie familiale sous l'Ancien régime, Paris : Éditions du Seuil : 1980 フィリップ・アリエス、杉山光信／杉山恵美子訳『〈子供〉の誕生』みすず書房
- Ariès, Philippe 1971 [1948]: Histoire des populations françaises: et de leurs attitudes devant la vie depuis le XVIIIe siècle, Paris, Self : 1992 フィリップ・アリエス、中内敏夫／森田伸子編訳『「教育」の誕生』藤原書店
- Berg, Jan Hendrik van den 1956: Metabletica: of leer der Verderingen, Nijkerk: Callenbach : 1986 ヴァン・デン・ベルク、早坂泰次郎訳『メタブレティカ—変化の歴史心理学』春秋社

- Bertuch, Friedrich Justin [1790]: Bilderbuch für Kinder, Band 1, Weimar: Verlag des Landes-Industrie-Comptoirs: 1982 フリードリッヒ・J・ベルトゥフ編『子どものための絵本』複刻世界の絵本館 1、ほるぷ出版
- Blamires, David 2009: Telling Tales. The Impact of Germany on English Children's Books 1780-1918, Cambridge: Open Book Publishers
- Böhmer, Günter 1977 [1968]: Die Welt des Biedermeier, München: Max Hueber Verlag
- Campe, Joachim Heinrich 1779/1980: Robinson der Jüngere, Ein Lesebuch für Kinder, Braunschweig: Verlag der Schulbuchhandlung : 2006 ヨアヒム・ハインリヒ・カンペ、田尻三千夫訳『新ロビンソン物語』鳥影社
- Carcenac-Lecomte, Constanze 2001: Der Struwwelpeter. In: François, Etienne / Schulze, Hagen (Hrsg.): Deutsche Erinnerungsorte, 3 Bde., München: Beck, S. 122-137
- Comenius, Johann Amos 1658: Orbius sensualium pictus : 1995 J. A. コメニウス、井ノ口淳三訳『世界図絵』平凡社　※原典は、以下で入手可能な 1746 年の版を参照：筑波大学付属図書館 website: http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/mylimedio/dl/page.do?bookid=682102&tocid=0 [2011-1-20]
- Cooper, James Fenimore [1826]: Last of the Mohicans: or A Narrative of 1757, Boston; New York: Colonial Press Company
- Der Westen, 14.06.2009: Lars von der Gönna, Der Struwwelpeter: Zwischen Grauen und Genuss: http://www.derwesten.de/kultur/literatur/Der-Struwwelpeter-Zwischen-Grauen-und-Genuss-id50531.html [2011-1-20]
- Elias, Norbert 1969a: Über den Prozeß der Zivilisation, 1 Bd., Bern; München: Francke Verlag : 1977 ノルベルト・エリアス、赤井慧爾／中村元保／吉田正勝 訳『文明化の過程（上）』法政大学出版局
- Elias, Norbert 1969b: Über den Prozeß der Zivilisation, 2 Bd., Bern; München: Francke Verlag : 1978 ノルベルト・エリアス、波田節夫／溝辺敬一／羽田洋／藤平浩之 訳『文明化の過程（下）』法政大学出版局
- Erasmus, Desiderius von Rotterdam 1511: Moriae encomium : 2006 エラスムス、渡辺一夫／二宮敬訳『痴愚神礼讃』中央公論社
- Erasmus, Desiderius von Rotterdam 1530: De civilitate morum puerilium : 1994 D・エラスムス、中城進訳『エラスムス教育論』二瓶社
- Feaver, William 1977: When we were young – Two Centuries of Children's book illustration, London: Thames and Hudson : 1978 ウィリアム・フィーヴァー、青木由紀子訳『こんな絵本があった―子どもの本のさし絵の歴史』晶文社
- Foucaut, Michel 1975: Surveiller et punir – naissance de la prison, Paris: Éditions Gallimard : 1977 ミッシェル・フーコー、田村俶訳『監獄の誕生―監視と処罰』新潮社
- Füleki, David 2009a: Struwwelpeter: Die Rückkehr, Hamburg: TOKYOPOP
- Füleki, David 2009b: gezeichnet von David Füleki nach Geschichten von Dr. Heinrich Hoffmann, Struwwelpeter: Das große Buch der Störenfriede, Hamburg: TOKYOPOP
- Gast, Otto 2009: Auf dem Gabentisch anno 1844, In: KulturGUT, Aus der Forschung des Germanischen Nationalmuseums, IV: Quartal 2009, S. 8-12. http://forschung.gnm.de/ressourcen/kulturgut/2009/Ausgabe_4_2009.pdf [2011-1-20]
- Gellert, Christian Fürchtegott 1769: Fabeln und Erzählungen. In: C.F. Gellerts sämmtliche Schriften. ; Erster-Zweyter Theil, Leipzig : bey M.G. Weidmanns Erben und Reich, und Caspar Fritsch. 筑波大学付属図書館 website: http://www. tulips.tsukuba.ac.jp/mylimedio/search/book.do?target=local&bibid=1254318&lang=ja&charset=utf8 [2011-1-20]
- Grimm, Brüder 1982 [1812]: Kinder- und Hausmärchen, Köln: Eugen Diederrichs Verlag : 1985 グリム兄弟、小澤俊夫訳『完訳 グリム童話―子どもと家庭のメルヒェン集―I 』ぎょうせい
- Grumach, Ernst / Grumach, Renate (Hrsg.) 1965: Goethe: Begegnungen und Gespräch, Band 1 1749-1776, Berlin: de Gruyter
- Hoffmann, Heinrich 1845: Reimerich Kinderlieb, Lustige Geschichten und drollige Bilder: mit 15 schön colorirten Tafeln für Kinder von 3 bis 6 Jahren, Frankfurt am Main: Literarische Anstalt (Rütten). Goethe-Universität: http://edocs.ub.uni-frankfurt.de/frontdoor.php?source_opus=3430&la=de [2011-1-20]
- Hoffmann, Heinrich 1846: Heinrich Kinderlieb, Lustige Geschichten und drollige Bilder: mit 20 schön colorirten Tafeln für Kinder von 3 bis 6 Jahren, Zweite verbesserte und stark vermehrte Auflage, Frankfurt: Literarische Anstalt. Goethe-Universität: http://publikationen.ub.uni-frankfurt.de/volltexte/2006/103431/ [2011-1-20]
- Hoffmann, Heinrich 1847: Der Struwwelpeter oder lustige Geschichten und drollige Bilder, 5. vermehrte Auflage, Frankfurt am Main: Literarische Anstalt : 1985 ハインリッヒ・ホフマン、佐々木田鶴子訳『もじゃもじゃペーター』ほるぷ出版
- Hoffmann, Heinrich 1871: F. S., Wie der Struwwelpeter entstand. In: Die Gartenlaube – Illustrirtes Familienblatt, Nr. 46, 1871, S. 768-770

- Hoffmann, Heinrich 1893: Dr. H. Hoffmann-Donner, Vom Struwwelpeter. Ein Brief an die Redaktion der „Gartenlaube“. In: Die Gartenlaube – Illustrirtes Familienblatt, Nr. 1, 1893, S. 17-19
- Hoffmann, Heinrich 2009: H.t Siefert / M. Herzog-Hoinkis (Hrsg.),»Allerlei Weisheit und Torheit« Ein Lesebuch zum 200. Geburtstag des berühmten Frankfurter Arztes und Kinderbuchautors, Frankfurt: Mabuse-Verlag
- Hürlimann, Bettina 1963 [1959]: Europäische Kinderbücher, Zürich: Atlantis Verlag : 1969 ベッティーナ・ヒューリマン、野村泫訳『子どもの本の世界／300 年の歩み』福音書館
- Knigge, Adolph Freiherr von 1977[1788]: Über den Umgang mit Menschen, Frankfurt; Leipzig: Insel Verlag.
- Mallet, Carl-Heinz 1987: Untertan Kind – Nachforschungen über Erziehung, Ismaning bei München: Verlag Max Hueber : 1995 カール - ハインツ・マレ、小川真一訳『冷血の教育学』新陽社
- MANGAKA.DE, Dez. 2009: Mangaka des Monats David Füleki （今月のマンガ家インタヴュー）: http://www.mangaka.de/index.php?page=mangaka-david-fueleki [2011-1-20]
- Miller, Allice 1980: Am Anfang war Erziehung, Frankfurt am Main: Suhrkamp Verlag : 1983 A・ミラー、山下公子訳『魂の殺人』新曜社
- Mittelbayerische Zeitung, 12. 06. 2009: Struwwelpeter ganz modern: Die Rückkehr des Störenfrieds: In David Fülekis Version kämpft der Anti-Held für das Recht auf Unfug von Louisa Knobloch. Mittelbayerische Zeitung: www.mittelbayerische.de:http://www.mittelbayerische.de/index.cfm?pid=10033&pk=413085&p=1 [2011-1-20]
- Molitor, Simone 2009: Der Struwwelpeter-Vater wird 200 Jahre alt, In: Lëtzebuerger Journal, 10. Juni 2009, N° 110, S. 26-27: http://www.journal.lu/uploads/media/LJ110_100609_P26-27.pdf [2011-1-20]
- Pape, Walter 1981: Das literarische Kinderbuch, Berlin; New York: Walter de Gruyter
- Rutschky, Katharina (Hrsg.) 1988 [1977] : Schwarze Pädagogik – Quellen zur Naturgeschichte der bürgerlichen Erziehung, Frankfurt/M – Berlin: Verlag Ullstein
- Schikorsky, Isa 2003: Kinder- und Jugendliteratur, Köln: DuMont Literatur und Kunst Verlag
- Schluß, Henning 2008: Gutes lernen - Perspektiven auf das moralische Lernen. In: K. Mitgutsch / E. Sattler / K. Westphal / I. M. Breinbauer (Hrsg.): Dem Lernen auf der Spur, Stuttgart: Klett-Cotta, S. 111-129
- Siefert, Helmut / Herzog G. H. (Hrsg.) 1978: Struwwelpeter-Hoffmann, Frankfurt am Main: Verlag Heinrich-Hoffmann-Museum
- Spence, Robert / Spence, Philip 1941: Struwwelhitler: A Nazi Story Book by Dr. Schrecklichkeit, London: The Daily Sketch and Sunday Graphic : 2005 Aus dem Englischen übertragen von Dieter H. Stündel, Autorenhaus
- Stengel, Hansgeorg / Schrader, Karl 2010 [1970]: So ein Struwwelpeter, Berlin: Der Kinderbuch Verlag
- Waechter, F. K. 1970: Der Anti-Struwwelpeter oder listige Geschichten und Knallige Bilder, Darmstadt: Melzer Verlag
- Weber-Kellermann, Ingeborg 1974: Die deutsche Familie: Versuch einer Sozialgeschichte, Frankfurt am Main: Suhrkamp Verlag : 1991 Ｉ・ヴェーバー=ケラーマン、鳥光美緒子訳『ドイツの家族』勁草書房
- Zipes, Jack 1983: Fairy Tales and the Art of Subversion – The Classical Genre for Children and the Process of Civilzation, London: Heinemann Educational Books Ltd : 2001 ジャック・ザイプス、鈴木晶／木村慧子訳『おとぎ話の社会史』新曜社
- 池内紀 1994:「ぼうぼうあたま」池内紀／喜多木ノ実『ドイツ四季暦：春／夏―河から街へ』東京書籍
- 伊藤光昌他編 2003: 『平和裡に世界に浸透する「ぼうぼうあたま」―Struwwelpeter と「ぼうぼうあたま」によるドイツ - 日本の掛橋―』、銀の鈴社
- 加野芳正／矢野智司 1994: 『教育のパラドックス／パラドックスの教育』東信堂
- 黒澤浩他編 2004: 『新・こどもの本と読書の事典』ポプラ社
- 関楠生 1983: 「Struwwelpeter 考」、『外国語科研究紀要』31 巻 1 号、東京大学教養学部外国語科、39-50 頁
- 竹内オサム 1989: 『マンガと児童文学の〈あいだ〉』大日本図書
- 西尾万里子 1987: 「H. ホフマンの Der Struwwelpeter（もじゃもじゃペーター）に関する一考察」、『研究紀要』、文化女子大学、第 18 号、158-167 頁
- 野村修 1999: 「ハインリヒ・ホフマンの絵本『もじゃもじゃペーター』とその影響をめぐって」、『梅花児童文学』梅花女子大学大学院児童文学会、第 7 号、1-27 頁
- 野村泫 1982: （編集代表）『複刻 世界の絵本館―ベルリン・コレクション― 解説』ほるぷ出版
- 野村泫 1991: 『ドイツの子どもの本』白水社
- 本田和子 1992:「『もじゃもじゃ』の系譜―鼻つまみ者から救済者へ」、本田和子『異文化としての子ども』筑摩書房
- 森田伸子 1986: 『子どもの時代―「エミール」のパラドックス』新曜社
- 安川哲夫 1990: 「近代イギリスのジェントルマン教育：家族・学校・社会の連関変化を中心として」

『金沢大学教育学部紀要 教育科学編』第 39 号、金沢大学、249-266 頁
・ 山内規嗣 2009: 「汎愛派教育思想における暴力と理性―バゼドウの『基礎教科書』を手がかりに―」広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座、『学習開発学研究』No. 2、111-119 頁
・ 山名淳 2003: 「増殖する教育の物語―絵本『もじゃもじゃペーター』について」、矢野智司／鳶野克己
・ 編『物語の臨界―「物語ること」の教育学』世織書房、115-150 頁
・ 山名淳 2006: 「『もじゃもじゃペーター群』の教育学的分析（前半）―絵本に描かれる『悪い子たち』の境界づけをめぐるライナー・リューレの試みとその妥当性について―」、『東京学芸大学紀要総合教育科学系』第 57 集、東京学芸大学、47-62 頁
・ 由良弥生 2002: 『大人もぞっとする 初版「グリム童話」』三笠書房

荒川 麻里（筑波大学大学院人間総合科学研究科 助教）

---

[1] 初出は 1833 年に出版された格言集（Maximen und Reflektionen, Hrsg. von J. P. Eckermann und F. W. Riemer, Stuttgart und Tübingen, J. G. Cotta'sche Buchhandlung, 1833）、引用は 1907 年 Max Hecker 編による（Maximen und Reflexionen. Nach den Handschriften des Goethe- und Schiller-Archivs. Verlag d. Goethe-Gesellschaft, Weimar, 1907, S. 117）。「平和的」（friedliche）の部分を「敵対する」（feindliche）と翻刻したものもある（Gedankenharmonie aus Goethe und Schiller. Lebens- und Weisheitssprüche aus deren Werken. Ein Führer durch das Leben und die sittliche Welt. Hg. von Rudolf Gottschall. Mit acht Farbendruckbildern von Jules Vogel. Vierte, wesentlich vermehrte u. verbesserte Auflage. Leipzig. C. F. Amelang's Verlag (Friedrich Volckmar). 1869. S. 251.）。訳出にあたっては、高橋訳「二つの平和な暴力がある。法律と礼儀作法とがそれだ」（ゲーテ、高橋健二編訳『ゲーテ格言集』新潮社、1952 年、149 頁）を参考にした。

[2] 佐々木田鶴子訳（1985 年）。本稿の訳語は、できる限りこれに合わせている。

[3] もじゃもじゃペーター博物館の website では、すべての物語をドイツ語朗読音声付きで掲載している。Struwwelpeter Museum: http://www.struwwelpeter-museum.de/struwwelpetergeschichten.htm [2011-1-20]

[4] 物語誕生の経緯については、ドイツで広く読まれた家庭雑誌 Gartenlaube（1853-1944, Wikisource website にて PDF 形式のデータが取得可能である。http://de.wikisource.org/wiki/Die_Gartenlaube [2011-1-20]）にホフマンが書いたもの（Hoffmann, 1871; 1893）および晩年にまとめていた自叙伝的な著作（Hoffmann, 2009）による。日本では、西尾 1987 にも詳しい紹介がある。

[5] 以下の website では、「もじゃもじゃペーター群」の多くを網羅的に紹介している。zeitlupe website: http://www.zeitlupe.co.at/struwwelpeter.html [2011-1-20]. また、フランクフルトにある 1914 年創立のゲーテ大学図書館の website では、PDF 形式のデータを提供している。Hoffmanniana in der UB Frankfurt am Main, Universitätsbibliothek Frankfurt am Main: http://www.ub.uni-frankfurt.de/wertvoll/hoffmann.html [2011-1-20].

[6] コミックの中でも特に日本のマンガの形式を指して、ドイツ語で Manga という。出版社 TOKYOPOP の website では、この作品を Manga として紹介している（http://www.tokyopop.de/buecher/manga/struwwelpeter_die_rueckkehr/ [2011-1-20]）。本稿では、この語の意味を含めて、「マンガ」と表記している。上のサイトでも Manga と Comic を使い分けてはいるが、違いは明確ではない。ドイツ語における Manga については、別の検討が必要であろう。

[7] 『ボウボウアタマ』出版の経緯等については、伊藤他編 2003 を参照。

[8] 生野幸吉の訳と飯野和好の絵による版（1980 年、集英社）は 2007 年にブッキングより復刊、佐々木田鶴子訳（ほるぷ出版、1985 年）は、絶版の多い「クラシック絵本シリーズ」の中で、現在も版を重ねている。

[9] 描きながら子どもに話して聞かせる時には、爪と髪をどんどん伸ばしていく。姿が見えない程になると、子どもはびっくりして泣きやむ。そうして診察にあたったのである（Hoffmann, 2009, 35）。フランクフルト「もじゃもじゃペーター博物館」（Struwwelpeter-Museum / Heinrich-Hoffmann-Museum）では、髪と爪のないペーターの下絵に子どもたちが自由に書き込むためのコーナーが設けられている（2010 年 12 月 28 日現在）。

[10] Hoffmann, 1845. 息子への贈り物は 14 枚だが、「らんぼうな かりゅうどのおはなし」の後半を 2 頁に分けたため、15 枚となっている。

[11] ホフマン自身が各所で 1,500 部と語っているため、一般にはこの数が知られている。しかし、初版本の部数はそれ以上であったとする説もある（Ulrich Wiedmann, Fünfzehnhundert! Wer bietet mehr? In: Struwwelpost 4, 1998, S. 13-16）。この論文は手に入らず、確認できていない。Wiedmann の指摘については、Blamires, 2009, 328 を参照。

[12] Hoffmann, 2009, 36. 出版年が印字されていないため諸説あるが、第 3 版は 1846 年に出版されたと思われる（Carcenac-Lecomte, 2001, 124; 山名 2006, 55）。

[13] 例えば、「スープ・カスパー：（子どもの本『もじゃもじゃペーター』の中の登場人物スープ・カスパーによる）スープを食べない、あるいは少ししか食べない子ども」（Suppenkasper, Duden: Deutsches Uiversalwörterbuch, Mannheim; Leipzig; Wien; Zürich: Dudenverlag, 1996, S. 1502）。「スープの嫌いな人（特に子供）（«Struwwelpeter»の登場人物にちなむ）」（国松孝二ほか編『独和大辞典』小学館、1985 年）。

[14] ブラウンシュヴァイク・デジタル図書館 website：Digitale Bibliothek Braunschweig: http://rzbl04.biblio.etc.tu-bs.de:

8080/docportal/receive/DocPortal_document_00000576 [2011-1-20].「もじゃもじゃペーター群」の作品も多い。

[15] „Kinderbücher sind zum zerreißen da“ (Hürlimann, 1963, 7). 参考文献から判断すると、ホフマンによる回想（Hoffmann, 1893, 18）をまとめて表現したものと思われる。読まれなかった本はきれいなまま残り、よく読まれた本ほど残されていないと続けている。

[16] Hoffmann, 1871, 768; Hoffmann, 1893, 17. もじゃもじゃペーター博物館の常設展では、当時ホフマンが目にしていただろう書籍として、Campe (1746-1818) の『新ロビンソン物語』（1779/1780）、『ラスト・オブ・モヒカン』で知られる J. F. Cooper (1789-1851)の 5 部作『レザーストッキング物語』（Leatherstocking Tales, 1823-41）、C. F. Gellert (1715-1769)の『寓話と物語』（1769 年）等を挙げている（2010 年 12 月 28 日現在）。

[17] 動物保護は、すでにクニッゲ（Knigge, Freiherr Adolph Franz Friedrich Ludwig, 1752-1796）による礼儀作法の古典『人間交際術』でも一つの章で取り上げられている。ホフマンの住んでいたフランクフルトでも、1841 年に動物保護の会が設立されている。Tierschutzverein Frankfurt und Umgebung von 1841 e.V. website: https://ssl.kundenserver.de/comedius-ssl3.de/webs/comedius_presenter_easy_web_v3/system/webs/tsv_ffm_63gdhs52z3/seite_3765.php?f_id=3765 [2011-1-20]

[18] 子どもの死や素人絵に対する批判などもあるが、残念ながらここでは立ち入らない。ザイプスは、一言「古典的な残酷物語」（the cruel German classic *Struwwelpeter*, Zeips, 1983, 156 : 2001, 259）と記している。

[19] Hürlimann, 1963 : 1969, 162. また、この頁だけは子どもに見せないようにする親もいる（Der Westen, 14.06.2009）。

[20] 国語辞典の類で「しつけ絵本」が見出し語にあるのは電子版の『スーパー大辞林 3.0』で、「子どもへの躾を目的に、執筆・編集された絵本の総称。挨拶の仕方をわかりやすく著した絵本など」（三省堂、2006 年 10 月 27 日、収録語数：約 23 万 8 千語）とある。例えば佼成出版社の「しつけ絵本シリーズ」には、「友だちと仲良く遊べる子になれる絵本」、「行儀が良い子になれる絵本」などがある（佼成出版社の「こどもの本」のページ: https://www.koseishop.com/ec/html/products/list.php?category_id=198 [2010-12-13]）。「しつけ」については、『広辞苑』第 6 版に「しつけ【仕付け】①作りつけること、②（「躾」とも書く）礼儀作法を身につけさせること。また、身についた礼儀作法。③嫁入り。奉公。④（「躾」とも書く）縫い目を正しく整えるために仮にざっと縫いつけておくこと。⑤（稲の苗を縦横を正しく、曲がらないように植え付けることから）田植」（新村出編、岩波書店、2008 年、1250 頁）とある。②の意味をとれば、しつけ絵本は、「子どもに礼儀作法を身につけさせることを目的に、執筆・編集された絵本」となる。柳田國男はすでに 1939 年の論稿において、「もうこのシツケといふ一語は全國にわたつて不明になり、また不明になりかゝつてゐるやうである」とした上で、次のように興味深い考察を行っている。「親のシツケが悪いといひ、よいといふ言葉が通例嫁聟の出入に際して最も多く聞かれたのも、本来は全く個人と社会との調和、それをできるだけ平易にまた円滑に、なし遂げさせようといふ親切な計画であつたからであるが、人は全智でないからこれにも若干の思ひちがひや考へ過ぎが家によつてはありがちであつて、終に多くの少年はシツケとはたゞむつかしいことをいつて叱られること、乃至はお灸をすゑられることゝ解し、或いは悪太郎が小さい者を突き飛ばしてシツケてやつたなどといふやうにもなつたのである。単語の用法としては確かに変遷しているが、それよりも大きいのはこれを裏打ちした大衆の心理の世に伴ふ動きであつた。それゆゑに私たちの、至つて遅蒔きのまたまはりくどい方法ではあるが、すでに文書には何らの記録が無いとすれば、かうした親方の眞情の中にまだかすかに残ってゐるものを通して、近世の社会道徳の発達史を探つて行くのほかないと思ったのである」（「親のしつけ」、柳田國男『定本 柳田國男集』第 29 巻、425, 427 頁）。

[21] これについては、山名 2003 および野村 1999 に詳しい。

[22] この本のおよそ前半分は、実は、ルチュキーの『闇教育』（Rutschky, 1988 [1977]）からの抜粋によって構成されている。彼女は多くの文献群の中から教育に関する著作等を取り上げ、時代を代表する教育者たちがいかに強制的な、時には異常なまでサディスティックな「教育」を行っていたかを浮き彫りにしている。例えば、子どものマスターベーション防止に用いる「陰茎用リング」について述べた、カンペの文章などが含まれる。ミラーの影響を受けたメルヘン研究家のマレは『冷血の教育学』（Mallet, 1987）において、フランケやペスタロッチの教育活動における罰を取り上げ、「教育的暴力行為」について論じている。その上でマレは、「ホフマンは、子供たちを楽しませるものが何であり、子供たちの願望を満たすものが何であるかを、よくわきまえていた」（Mallet, 1987 : 1995, 378）と『もじゃもじゃペーター』を評価している。

[23] 例えば、Rein-Main, 14. Juni 2009, Lustvolle Phantasien oder „schwarze Pädagogik“ ?, S. R1, http://www.sfi-frankfurt.de/fileadmin/redakteure/pdf/Pressestimmen/2009-06-14-FAZ-Lustvolle_Phantasien.pdf [2011-1-20]

[24] 例えば、「ゲーテ大学におけるホフマン年」（Hoffmann Jahr 2009 - Goethe-Universität: http://www.uni-frankfurt.de/fb/fb10/jubufo/Hoffmann_Jahr_2009/index.html [2011-1-20] ）など。記念切手も発行されている（Bundesministerium der Finanzen, Pressemitteilungen Nr.: 21/2009）。

[25] 出版社である TOKYOPOP の website で、「本の中の本」として紹介されている。TOKYOPOP - Bücher: Manga: Struwwelpeter: Das große Buch der Störenfriede: http://www.tokyopop.de/buecher/artbooks_und_specials/ truwwelpeter_das_grosse_buch_der_stoerenfriede/ [2011-1-20]

[26] Grumach / Grumach (Hrsg.), 1965, 109.